

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2024年(令和6年)4月25日号 No.1956

目次

■ 2023～2024年のロシア・NIS諸国の経済(下)	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2024年5月号のご紹介	13
■ エトセトラ	14
「日本とタジキスタンの投資協力の方向性」開催のご案内 / 14	
■ トピックス	14
「中央アジア+日本」首脳会合、8月開催で調整 / 14	
日ウクライナ外相会談 / 14	
サンマなどの国際漁獲枠で合意 / 14	

2023～2024年のロシア・NIS諸国の経済(下)

はじめに

前回に引き続き、CIS統計委員会および各国統計局発表のデータ等にもとづき、2023年の経済実績を中心にNIS諸国の最新の経済情勢についてのレビューを行う。

前回は、ロシア・NIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバについての解説をお届けした。今号では中央アジア諸国(カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン)、南コーカサス諸国(アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア)、モンゴルを扱う。

前号で掲載した全13カ国の主要経済指標について、最新の数字に更新したので、改めて掲載する。

カザフスタン： 地政学的綱渡りをしつつも成長は加速

2023年、ナザルバエフ初代大統領からの権力移行を完了したトカエフ“新”政権のもとで、カザフスタン経済は前年のGDP3.2%増から5.1%増へと成長を加速させた。その要因としてまずあげられるのは、ロシア経由の欧州向け石油パイプラインCPCが正常に稼働したことだろう。2022年2月末のロシアによるウクライナ侵略を背景に、輸出向けカザフスタン産原油の約80%が通過するCPCでは、積出港ノヴォロシースクにおける出荷設備の破損や第二次世界大戦時の機雷発見など、にわかに問題が頻発するようになり稼働率が低下した。その結果、同年のカザフスタンの石油生産は前年比1.9%減の8,424万tにとどまり、成長減速の主因となったのだ。